

## 第一回学校環境適正化検討委員会会議録

- 一、日 時 令和4年10月20日（木） 午後3時00分～午後4時34分
- 一、場 所 金浦公民館 2階 軽運動室
- 一、出席者 本間 徳之、伊藤 兼壽、大橋 次雄、檜岡 一英、土田 寿子、  
伊藤 和明、石船 清隆、佐藤 玲、大須賀 博、阿部 道、  
佐藤 健、阿部 徳之、佐藤 真二郎、佐藤 直哉、佐々木 誠、  
三浦 順子、佐藤 緑、齋藤 隆、熊谷 洋、小笠原 愛美、  
宮崎 絵理、竹内 るり子、見山 謙一郎（計23名）
- 一、事務局 教育次長 畠山 真姫子、教育総務課長 今野 和彦、  
学校教育課長 菱刈 宏記、  
教育総務班 班長 佐々木 真紀子、主査 齊藤 沙織、  
主任 竹屋 昭宏

- 佐々木班長 これより、令和4年度第一回学校環境適正化検討委員会を開会します。はじめに、委嘱状の交付を行います。  
（教育次長から出席者代表 大橋 次雄に交付）  
続きまして、教育次長からご挨拶申し上げます。
- 教育次長 （挨拶、出席者への感謝、見山謙一郎先生の紹介）  
現在にかほ市には4つの小学校と3つの中学校があります。それぞれ学校の規模や、環境の良いところを運営に活かして、地域の皆様の力を借りながら取り組んでいるところです。そうした中、少子化は進む一方、合わせて社会の環境も加速度的に変わってきています。しかしながら、学校教育の現場にはますます多様なことが求められているのが現状です。  
にかほ市の令和3年度生まれの子どもの数何人でしょうか？市全体で91人でした。内訳を地域別にみますと、象潟地区35人、金浦地区16人、仁賀保地区40人という内訳となっておりました。今年度にかほ市内の1年生は141人いましたので、50人減ったこととなります。にかほ市誕生の翌年、平成18年度は210人いましたので、16年間で半分以下に減ってしまったこととなります。

子ども達が少なくなることで、学級の数が減ります。複式学級になる場合もあります。併せて、教員の配置数も少なくなります。こういった状況は大きな課題に繋がっていきます。もちろん小規模校の良い点もありますが、ますます児童生徒数が減るという状況、課題をメリットに置き換えていくには限界もあるのではないかと考えているところです。

学校教育、学校は未来の担い手子ども達を育む営みの場、そしてまちづくりの在り方と密接に関わるという性格を持っています。

この検討委員会では、初めから学校の合併や統合ありきで話し合うのではなく、あくまでもにかほ市の子ども達にどう育ってほしいか、そのために学校教育の環境をどうしていったらいいのか、地域の皆様と一緒に考えて話し合っていく、そんな場にしていきたいと考えています。皆様にはいろいろな場で話題にさせていただいて、一緒に考えて、たくさん話をしてもらいたい、今日はそのための情報をお伝えします。

そして、見山先生からは考え方のヒントをいただく時間にしたいて思っております。次回からは活発な話し合いで会を盛り上げていただきたい、これをお願いとして挨拶とさせていただきます。教育委員会は固い会をしていると思われがちですが、子ども達の未来を話し合う、こんなに良い会議は無いと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

●佐々木班長

ありがとうございました。それでは、次第4番案件に入ります。委員長選出まで、事務局が進めてまいります。選出方法について、皆さまにお諮りしたいと思いますが、いかが執り行いましょうか。

(事務局案の声)

事務局案として、委員長には象潟自治会長連絡協議会長 大橋委員、副委員長には金浦自治会長連絡協議会長 伊藤委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(賛成の拍手)

異議なしということですので、進行を委員長に代わりたいて思います。大橋委員長、よろしくお願いいたします。

●委員長

指名を受けました、大橋と申します。象潟自治会長連絡協議会の会長をやっております。こういった会は不慣れで皆様の足を引っ張ることが多々あると思いますが、ご協力の程よろし

くお願いします。

●副委員長

ご指名いただきました伊藤と申します。馬齢を重ねてきておりまして何もできませんが、金浦自治会町内会に入ってから15年くらいになります。荷物が重くなってきておりますが、内気なもので迷惑をかけると思っておりますが、よろしく申し上げます。

●委員長

引き続き案件4(2)に入ります。にかほ市の小中学校の現状について、事務局より説明をお願いいたします。

●今野課長

事前に配布しております検討資料を使って説明します。

資料1ページをお開き下さい。委員会設置の目的ですが、学校環境適正化は、将来にわたってより良い教育環境を整備し、将来を担う子ども達の教育を充実させるために行うものという認識でおります。児童生徒数の減少が今後も続くことが予想されます。今のうちに対応策を検討し、子ども達への影響を最小限に留めることが必要であるという認識のもと、この適正化検討委員会を設置したものです。

次に2番の小中学校の現在の規模です。こちらの表では学校ごとに学年別の学級数と人数を記載しております。上から平沢小学校は基本的に1学年2学級となっておりますが、4年生のみ1学級となっており、全11学級。院内小、金浦小は全学年1学級で全6学級。象潟小も平沢小と同じく基本的に1学年2学級ですが、4年生のみ3学級となっているため、全13学級となっております。下の表が中学校になります。仁賀保中学校は基本的に1学年2学級になりますが、3年生が3学級となっており、全7学級。金浦中学校は全学年1学級で全3学級。象潟中も基本的に1学年2学級ですが、3年生のみ3学級で全7学級となっております。

次に2ページですが、こちらには国から示されている学級数の標準規模が記載されています。小学校では1学級35人、中学校では40人を標準として、12～18学級が標準とされています。地域の実態、その他特別な事情があるときはこの限りではないとされているわけですが、学級数だけで見ますと、この標準規模を満たしていないという状況です。また、望ましい学級数の考え方としては、2ページの中段にございますように小学校では複式学級を解消するために、少なくとも1学級1学年以上、また、全学年でクラス替えを可能とし、同学年に複数教

員を配置するためには1学年2学級以上あることが望ましいとされています。同様に中学校を見ても、全学年でクラス替えを可能とし、同学年に複数教員を配置するためには少なくとも1学年2学級以上、また、すべての授業で教科担任による学習指導を行うためには、少なくとも9学級以上確保することが望ましいとされています。この標準規模や望ましい学級数の考え方を踏まえて、もう一度にかほ市内の学校を見ますと、標準規模を満たしているのは、象潟小学校のみとなりまして、ほかは小学校、中学校ともに小規模、あるいは小規模化に向かっているといた状況です。

次に3ページをご覧ください。上段が小学校児童数の推移、令和4年までの実績と令和10年までの推計を示しております。下段が同じく中学校の推移と推計です。グラフは平成17年からの総数を表しております。小中学校ともに平成17年から現在まで若干の増加がみられた時期もありましたが、総じて減少傾向にあるということが、このグラフからお分かりいただけるものと思います。今現在、標準規模にあります象潟小学校、標準規模に近い平沢小学校の現在の規模が維持できない時期が迫っているということが言えると思います。また、院内小、金浦小については1学年1学級を維持できず、複式学級になる可能性が高くなっている状況です。

次に4ページですが、これまでににかほ市が行ってきた、適正化（統合）を記しています。にかほ市発足以降、小学校の統合を3度、中学校の統合を1度実施しています。小学校では平成26年度に院内小学校と小出小学校を統合し、統合の結果183人の児童数となりました。しかし、その8年後となる現在令和4年には児童数が112人になり、統合時より4割ほど減少しているという状況です。また、平成29年度には象潟小学校、上浜小学校、上郷小学校が統合し、418人となりましたが、5年後の令和5年度には370人と、統合時よりも1割ほど減少しているという状況です。

4ページ7番、5ページ8番はそれぞれ小学校、中学校の人数の実績と将来推計を2035年まで記しております。小学校につきましては、令和12年には市全域で600人を下回り、令和17年には500人を下回る見込みとなっております。また中学校においても、令和12年には400人を下回り、以降も

減少が続く見込みとなっております。この予測は国立社会保障・人口問題研究所の推計値を基に算出しております。5ページ中段には、小規模校の対策例5つを記載しております。1つ目として、通学区域の変更や柔軟な運用。2つ目として、学区外からの通学者を増やす方法があります。この2つを実施する場合は、併せて行われる必要があると思います。3つ目としては小中一貫校の新設がありますが、一貫校には色々な種類がございます。施設隣接型、施設一体型、施設分離型、義務教育学校などの種類があります。4つ目としては、2つ以上の学校を1つにまとめる統廃合が挙げられます。最後に複式学級を受け入れ、小規模の学校のまま存続させるということが挙げられます。考えられる対策としてはこの5つと思われそうですが、ほかに良い案がありましたら、教えていただければと思います。

6ページ、7ページには、小規模校、大規模校のメリット・デメリットを学習面や生活面、学校運営面等の項目毎に記載しています。小規模校にもメリットはありますし、大規模校にもデメリットはございますので、小規模校が必ずしも良くないということではございませんが、多様性を求められたり、或いは大勢の中で切磋琢磨するというようなことを考えますと、やはりある程度の規模がある方が学習の面だけでも行いやすいのではないかと考えているところです。

最後に8ページ市内小中学校校舎施設等の概況になります。こちらの説明については省略させていただきます。説明は以上となりますが、このような状況を踏まえまして、今後のにかほ市の小中学校の在り方を皆様にご検討していただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

続きまして、学校教育課長からお願いします。

●菱刈課長

学校教育課 菱刈と申します。よろしくお願いいたします。日頃子どもたちの教育のためにご尽力くださいますと本当に感謝申し上げます。私の方からは、にかほ市の子どもの実態をお話しします。

今年の4月に行われました小学校6年生、中学校3年生を対象とした令和4年度全国学力・学習状況調査の質問紙結果から主なものをお話いたします。対象者が変わりますので、今年度の小学校6年生と中学校3年生の実態として、次のような特徴がみられました。

平日のゲーム時間やSNSや動画を見る時間が2時間以上小中ともに、県の平均よりも5～8ポイント高くなっており  
ます。

自分にはよいところがある、という質問に対しては、全国よりは肯定的な回答は高いものの、県と比べると小学校の方は兼よりも11ポイント低くなっており  
ます。(中-2.8)

夢や目標を持っていますか、という質問に対して、全国よりは高いものの、県と比べると小3.8ポイント 中6.6ポイント低い  
です。

読書が好きですか、という質問に対しては小7ポイント 中11ポイント低くなっています。

マイナスばかりではなく、高いところもあります。昨年度から小中学校に1人1台タブレットということで、活動しておりますが、授業中のICT機器の活用、特に調べる場面での活用については、県よりも高くなっており  
ます。

また小学校の地域の行事へ参加していますか、という問いについては県より10ポイント高いということで、地域の行事に関わることが多くなっていると感じ  
ます。

全体として国語・算数・数学に対して興味・関心が低い傾向にあり、意欲の向上も課題となっております。私からは以上となります。

●委員長 続いてに案件の3に入ります。講話、演題は「想像から創造へ」講師は、見山謙一郎先生です。よろしくお願  
いします。

●佐々木班長 事務局から見山謙一郎先生についてご紹介させていただきます。

(見山先生の紹介)

●見山先生 (講話)

●委員長 見山先生、ありがとうございました。案件4に入ります。各委員自己紹介となります。委員名簿の順に進めてい  
きます。最初に教育次長からお願いします。

(各自自己紹介)

(一部抜粋)

- ・子どもの命を守ること、安全であることが大切だと考えています。
- ・人には悩みがあるので、それをじっくり話せるような環境を作っていくのも地域、自治会の役割だと思  
っています。

- ・実績、推計を見て人数が少なくなっていることを実感しました。子どもが少なくなっている中でも、やるべきことがあるのではないかと考えております。
- ・過去を頼りにするのではなく、今何が必要なのか、なぜそれが必要なのか考えるきっかけをもらえました。
- ・子どもが多かったときはいろいろな出入り、交流があったため、様々な体験ができた。少なくなった今、より良く生きるために何が必要か、なぜそれをするべきか、それを考える場に立ち合わせてもらえて幸いです。
- ・これからも子どもの人数が減っていくが、未来を創るのは子ども達なので、子どもが少ないことをメリットに変えていける仕組みを皆さんと作ればと思っています。
- ・子どものときに学校でいろいろな教科を学んできましたが、思い出すことと言えば、なべっこ遠足など自然の中での行事・活動です。子ども達には、学ばなければいけない教科はもちろんです。そういった特別な経験を大切にできる学校を作っていけたらと思っています。
- ・地元で幸せに暮らせる生徒を育てていきたい、そのために小中学校のうちから地元の良さを教えていければと思います。
- ・外から色々な人を連れてきたいです。訪れれば訪れるほど魅力を感じるころ。学校教育の現場で話したいという人はいるはず。

●委員長           最後の案件5に入ります。ここからは進行を事務局お返しします。

●今野課長        今回の日程についてお話しします。今回は12月の開催を予定しています。12月14日もしくは12月22日で調整中です。決まり次第またご連絡します。

                  今回の開催までに9月のアンケート調査の結果を送付させていただきます。

                  また、次回からは3グループに分けて、同じテーマについて議論していただく形をとりたいと思っていますのでよろしくお願ひします。

                  3回目以降については後日改めてご連絡します。

●齊藤主査        (事務局からの連絡)

●今野課長        他に皆様からご質問はありませんでしょうか。

●佐々木班長     ご質問が無いようですので、これを持ちまして第一回学校環境適正化検討委員会を終了します。(午後4時34分)